

「生物多様性ひょうご戦略」改定に係る「生物多様性ひょうご戦略推進委員会」での意見

1 日 時 :平成24年6月21日(水)15:00～

2 場 所 :ひょうご女性交流館501

3 出席委員

委員名	所属等	委員名	所属等
岩槻 邦男	人と自然の博物館館長	田中 哲夫	兵庫県立大学准教授
太田 英利	兵庫県立大学教授	内藤 親彦	神戸大学名誉教授
大原 健司	元西宮市貝類館研究員	中島 和一	神戸大学名誉教授
角野 康郎	神戸大学教授	中瀬 勲	兵庫県立大学教授
田中 眞吾	神戸大学名誉教授	服部 保	兵庫県立大学教授

4 内 容

(1)戦略の方針・方向等

	意 見	対 応
1	生物多様性戦略は、生物だけの問題を扱うのではなく、他部局とも連携し県の方向性を示す戦略にしないといけない	庁内連絡会議で協議
2	産業活性化も大切であるが、生物多様性への配慮等が関連付けられるように、戦略で導かないといけない。	改定作業で反映
3	県立自然公園をこれからどう考えて行くのか、戦略の位置付けに関して議論していく必要がある。COP10を受け、国立公園については環境省で議論されている。	自然環境部会で協議
4	瀬戸内海環境保全特別措置法の改正もあり、漁村、藻場などについて新しく盛り込まれたものがある。海のことでもう少し戦略に盛り込む方が良い。	改定作業で反映
5	コウノトリの事例を国交省が自分の手柄のように紹介している。兵庫県も良い事例は、積極的に公表しないといけない。他部局の事例でも良いものは取り上げて褒め称えることで、生物多様性の気運を盛り上げることができる。	庁内連絡会議で照会のうえ改定作業に反映

(2)5年間の成果

	意 見	対 応
1	5年間の成果の評価も生物の状況だけでなく、県の他部局と連携して評価を進める必要がある。	庁内連絡会議で協議
2	評価にあたっては、数値で表現できないものを第三者にどのように提示するか重要。	自然環境部会で協議
3	出来たことだけでなく、出来なかったことも挙げることで生物多様性の難しさを一般の人に理解してもらえる。	自然環境部会で協議

(3)市町戦略

	意 見	対 応
1	市町版戦略は、環境基本計画の中に盛り込むのではなく、一つの戦略として策定してもらう方がよい。	自然環境部会で協議
2	県版の戦略では、細かいところまで網羅できないので、各地域レベルの戦略を行ってもらえるような方法が必要であ	
3	生態系サービスに関して、近年、研究・評価が進んでいる。人が持ち込んだものによる影響では、外来生物だけでなく、化学物質による影響も盛り込む必要がある。	改定作業で反映

(4) 遺伝的多様性

	意見	対応
1	遺伝子の多様性の概念をわかりやすく記載する必要がある。	自然環境部会で協議のうえ、「遺伝子の多様性」及び「国内外来種」の記載について、改定作業に反映
2	遺伝的多様性について、緑地計画や森の造成に際し、遺伝的多様性に配慮した苗木を調達するなど取組を行っている。農林分野でも地域性種苗に配慮した取組を進めるべきである。	
3	「種の多様性」はわかりやすい。反対に「遺伝子の多様性」はわかりにくい。最下層の多様性であり、一番重要である。遺伝子の多様性は喪失してしまっただけでは取り返しがつかない。	
4	「遺伝子の多様性」に関しては、生物を移動させる時に一番注意しないといけない。メダカ、ホタルはよく言われているが植物の移動も注意しないといけない。国内外来種の問題を一般の人にもわかってもらえるよう記載する必要がある。	

(5) 環境学習

	意見	対応
1	県のレベルでは、普及啓発、とりわけ環境学習が重要。もう少し教育機関等と連携を図れる方がよい。今の環境学習は、外来種を増やすような活動になっていることもある。連携することで生物多様性にとって良い方向に向かわせることが重要である。戦略の目玉事業になるのではないか。	教育委員会及び環境政策課と連携のうえ、環境学習の記載について、改定作業に反映
2	自然教育の重要性の問題がある。将来を担う子供達のためには、自然に触れる機会を増やし、子供のための自然教育を推進していくことが重要。	
3	国では文科省との調整は難しいようであるが、県なら教育関係と連携して何か取り組めるのではないか。	

(6) 愛知目標

	意見	対応
1	愛知目標の陸域、海域の数値目標をどう扱うか。数値にとられると大変なこと。目標に対してどう考えるのか検討が必要である。	自然環境部会で協議